

インドネシアの話の方  
リム氏に取材、その足を  
パビリオンに向かった。  
SIGA RATI  
ND TAMA社は藤に  
カフルに着色し、カシ  
ユアルコンセプトの製品  
を出展していた。同国の  
伝統素材で製品化しなが  
ら、藤製品のイメージを  
一新してきた。他にバ  
ナ繊維、ワタアサシン  
(蓆)など、ナチュラル  
な素材で軟らかさや温か  
味をフースに練り広げて  
いた。こうした傾向はテ  
セアン全体に拡大した。

毎年出展してきてディ  
スプレイで注目されてい  
る革製品の企業がある。  
HALO (ASIA) 社  
でアクリル繊維を毛皮に  
見立て、フースの壁面全  
体を囲い、フース内は雪  
を模して白砂状に撒き散  
らしている。何の製品企  
業か分からずディスプレイ  
に惹かれて入る来場者  
は多い。筆者もその一人  
だったが、毎年だから知  
悉していて、まさに本革  
の大型ソファから毛皮の  
一人掛けイス、そして内

部の壁面に沿った棚に靴  
類が並んでいる。  
筆者も普段の仕事用に  
買おうかと物色するのだ  
が、ひとつにはいまいち  
気に入ったものがなく、  
あるいは卸のサンプルと  
してロット受注しかな  
い可能性もある。ただ  
し、広州展だったと思  
うが、キャスター付きの本  
革の旅行鞆を一万円で買  
った。イタリアの革製品  
企業が中国で生産して販  
売するフースだった。

## 各社が特徴を競う展開に アイデア開発の蔡女性社長

変わった展開といえ  
ば、ホール大の一番奥の  
ゾーンにイタリアの企業  
が四社パビリオン的に出  
展していた。何が変わっ  
ていたかという点、イタリ  
ア家具のフース展開では  
なく、樹脂、金属製椅子  
やマットレス、ピロー(寝  
装品)、絵画、バンブー、  
藤を編んだ加工材(パー  
ツ)など、四社が各々出  
展していたことだ。国旗  
をフースの袖に記し、イ  
タリアと大きく掲げられ  
るには、なんとも傲  
笑ましい展開だった。

懐かしい蔡徳娟社長に  
会った。女性でかつてI  
FDTに出展し銀賞を獲  
得したデザイナー・トライ  
・インテリア社長。木製  
のフロアボックスの収  
納機能になっていて、板  
を剥がすと衣服、雑貨  
など何でも全て室内の床  
が収納になるという画期  
的なアイデアだった。今  
度は和風の簡易な室を、  
自由なスペースに設置で  
きる。いわば実用的な可  
動式和室といったシステ  
ムルームを開発、例えば



⑥デザイナー・トライ・イン  
テリアの蔡社長と同社製品  
⑦イタリアの四社ゾーン



⑧日本のマンシ  
ョンなどに設  
置できる。中  
国のマンショ  
ンオーナーが  
間取りを自由  
に構成できる  
アイデアを展  
開していた。

## インターナショナルクロス

国際

Publication: The Home Living  
Country: Japan  
Date/Issue: Issue 1357, 15 may 2007